

11	海部	大治町立大治西小学校	スガノ ケンイチ
分科会番号	18	分科会名	名前 菅 野 謙 一
		情報化社会の教育	

研究題目

児童の学習の振り返りに対する即時フィードバックが学習力に及ぼす効果検証
～AI フィードバックツール「Re:Think」を用いた学習力向上の試み～

※ 本研究は、文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン (Ver.2.0)」及び所属自治体が定める生成 AI 利活用に関するルールを遵守し、適切な運用の下で実施した。

研究要項

1. はじめに

現代社会は技術の進歩やグローバル化が急速に進み、先の見通しを立てにくい時代である。こうした社会を生きる子どもたちには、知識を受け取るだけでなく、自分の学びを振り返り、必要に応じて学び方を見直しながら学び続ける力が求められている。中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の児童生徒の学習評価の在り方について（報告）や次期学習指導要領においても、見通しをもつことや自己の学びを振り返ることが重視され、学び続ける力を育てるためにも学習の中に位置付ける振り返りが重要であるとされている。振り返りは、何を学び、どのように考え、どこでつまづいたのかを見つめ直し、次の学習へつなげるためのものだと考える。つまり、振り返りは書いて終わりではなく、自己の学びを俯瞰、客観して次へ動かすための学習活動であると捉えている。

本研究を進めるにあたり、児童の振り返りに対する意識や自己調整学習の実態を把握するため、第5学年27名を対象に4件法によるアンケートを実施した。その結果、全14項目の平均値は2.17であった。「難しい問題でも、すぐにあきらめずに取り組もうとしている」は2.59であり、全項目の中で最も高い値を示した。2.59は十分に高い値とはいえないものの、他項目と比較すると、児童には、難しい課題にも粘り強く取り組もうとする意識が相対的に見られた。その一方で、「なぜ分からなかったのか、理由を考えることができる」は1.96、「前の振り返りをもとに、次の学習の進め方を考えている」は1.78にとどまった。実際の学習場面でも、学習には取り組むものの、つまづきの理由を分析したり、自分に合った学び方を選んだりすることには難しさが見られた。以上のことから、児童は課題に取り組もうとする意識に比べて、自らの学習過程を分析し、その後の学習方略を調整することに課題があると捉えた。

振り返りを単なる記録や感想で終わらせず、自分の学びの段階を知り、つまづきの理由や次の学び方を考えるための手立てにしていくことが自己の学びを深めることにつながるとされる。そのためには、児童一人一人が、自分の振り返りに対して「どこがよいのか」「何をもう少し考えるとよいのか」「次にどう生かせるのか」をその場で確認できる具体的で十分な支援が必要である。しかし、担任及び授業者が毎時間、すべての児童のすべての教科の振り返りを読み取り、一人一人に即時かつ個別にコメントを返すことは、児童の学びを促進、支援するにあたり効果は大きいといえるが、時間的な難しさがあるのが現状である。

そこで、本研究では、児童の振り返りに即時かつ個別にコメントを返すAIフィードバックツール「Re:Think (リ・シンク)」を活用する。「Re:Think」によるフィードバックを通して、児童が学習内容、学習過程、根拠・理由、次への見通しに目を向け、振り返りを次の学びに生かせるように支援する。そして、その活用が児童の振り返りの質や学習力の向上にどのように関わるのか、児童に影響を及ぼすのかを明らかにすることを目的とする。

なお、本研究における学習力を「学習の見通しを立て、自分の学習状況を確認、必要に応じて学び方を調整しながら、学び続けようとする力」と定義し、研究を進めることとする。

2. 研究の仮説と方法

(1) 目指す児童像

学習の目的を意識しながら、自分の学びを振り返り、学び方を選び直しながら、粘り強く学び続ける児童

(2) 研究の仮説と手立て

ア 仮説

仮説1（振り返りの質の変容）

毎時間の授業で個別の振り返りへの指導を継続して行うことで、児童の振り返りの記述が学習のねらいに沿った内容やつまづきの要因・次の学びへの見通しなどに変容し、学びの質が高まるだろう。

振り返りの質が高まることで、学習内容の再構成や学習方略の調整が促進され、学習力が向上するだろう。

イ 手立て

（ア）「Re：Think」の活用

※ 「Re：Think」は、教師があらかじめ設定したプロンプトに基づき、児童の振り返りに即時に助言を返す、安全性に配慮した AI ツールである。自らの学び方を調整する力を育てることをねらいに、児童が振り返りを記述した後、その内容を見直し、自分の学びのよさや課題を客観的に捉え、次の学び方を考えるために活用した。また、活用にあたっては、生成 AI の特徴や利点・リスク理解、出力された情報をそのまま受け入れるのではなく、自分に合った活用方法を吟味することの重要性について学ぶ機会を設けた。

ウ 検証方法

（ア）振り返りの質の変容

・ 導入前の振り返りを抽出し、学習過程の省察・理由付け・次への見通し等を含むループリックにより評定し、質的および量的に比較する。

（イ）抽出児童の設定および変容 ※ 以下、抽出児童 A・抽出児童 B を A 児・B 児と表記する。

児童	学習の取り組み方等	研究実践前の振り返りの記述
A	学習に意欲的に取り組んでいる。一方で、学習の進め方は授業者の指示に沿う場面が多く、自分で見通しを立てて学びを進めるという点では、十分に自立しているとは言い難い。	大切だと思えることを勉強しました。友達とも勉強しました。
B	学習意欲は高いとはいえず、課せられた宿題に取り組まないことが多い。授業中も 45 分間集中して学び続けることが難しい場面が見られ、振り返りの記述も短文にとどまることが多い。	間違えたから次は頑張りたい。

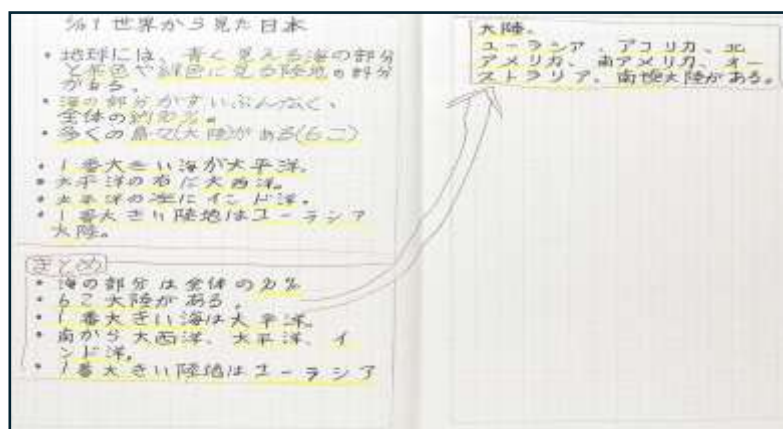
3. 実践内容

（1）アンケート結果と実際の児童の姿の整合性の確認と「Re：Think」の活用までの経緯

アンケート結果から見取った児童の実態と実際の学習場面における児童の姿との間に差異が生じてないかを確認するため、社会科「世界から見た日本」の単元において一斉授業を行い、児童の学習への取り組みや振り返りの記述を観察した。児童は一生懸命に話を聞いたり、ノートに板書を写したり、真面目に学習に向かう姿を見ることができた。学習の成果を測るために、テストを実施した。実施後にテストの結果、学習の過程を振り返らせた。抽出児童の振り返りの記述は「ウ 検証方法（イ）抽出児童の設定および変容」に記載した通りである。

これらの振り返りから児童は学習に取り組んだことやできなかったことに対する悔しさ、次も頑張りたいという意欲は表現できていることが分かる。一方で、「何を学んだのか」「どのように考えたのか」「なぜ間違えたのか」「次にどのような方法で学ぶのか」については具体的に記述されていなかった。このことから、児童の振り返りは感想や結果、意欲の記述にとどまりやすく、学習過程を見つめ直したり、次の学習方略を考えたりすることには課題があると考えられる。これは事前アンケートにおいて「なぜ分からなかったのか、理由を考えることができる」「前の振り返りをもとに、次の学習の進め方を考えている」の平均値が低かった結果とも相違が見られないと判断できた。

また、児童の学び方の実態把握のためにテストに向けての学習に取り組むように指示をした。その際、A 児は教



【資料1 A 児の学習内容】



【資料2 B 児の学習内容】

科書の文言をノートに書き写すといった学習を進めていた（資料1）。一方、B児は国名を羅列するだけの学習にとどまっていた（資料2）。これらの姿から、2名とも学習に向かおうとする意欲は見られるものの、何をどのように学べばよいのかを十分に捉えられず、自分に合った学び方を選択できていない様子が見られた。

つまり、学習への意欲を具体的な学習行動に移し、成果につなげるための学び方がまだ十分に身に付いていないと捉えた。だからこそ、児童が自分の学びの段階を知り、目的に応じて学び方を選び直しながら学習を進められるように支援することが必要であると考えられる。

そのためには、児童の学習への取り組みを見取り、よさや課題を具体的に伝える授業者のフィードバックが不可欠である。児童が自分の学び方を客観的に捉え、次の学びを考えられるようにするためには、学習後の結果だけでなく、学習過程に対するメタ的認知への支援が求められる。だからこそ、児童が学び方を身に付け、自分で学習を調整していくためには、学び方を含めた適切な振り返り指導による継続的なフィードバックを位置付けることが重要になってくるのである。

社会科「日本の地形と気候」をはじめ、各教科においても、児童の学習力を向上させるために振り返りの充実を目指して振り返りの指導を継続した。その結果、学級の多くの児童が200字から300字程度の振り返りを書くことができるようになってきた。また、B児のように学習への意欲や学力面に課題が見られる児童においても、同様の変容が見られ、振り返りを書くことへの抵抗感は次第に少なくなってきたと考えられる（資料3）。

何をどうすればいいかわからなかったから今日の10問テストで2問まちがえちゃったからもっと覚えておけばよかった。けっこうできてうれしいけど、2問まちがえちゃったから全部とけるように勉強する。これからはわからなくてもとりあえず、書いて覚えたいし、わかんないまま終わったらもったいないから、もっと書いて覚えたいと思います。なので、もっと勉強して全部覚えて満点を取れるようにしたいので、わかんなくてもとりあえず書いて、うめて覚えられようになりたいと思います。

【資料3 B児のテスト後の振り返り(原文)】

大切だと思うことをしぼって書いて、その中でも大切なことをまとめて書いたり、放課中に友達と問題を出し合ったり、社会について話した。今日の結果はあわせて110点中100点だった。今日のテストの110点中100点は、ほぼ放課中に話し合ったり、問題を出し合ったりしてとれた100点だから、次からは放課に話し合ったりするけど、授業でちゃんと知れるように、前回は目標を書いて、その目標を達成するためにどうすればいいか考えてからやろうと思った。

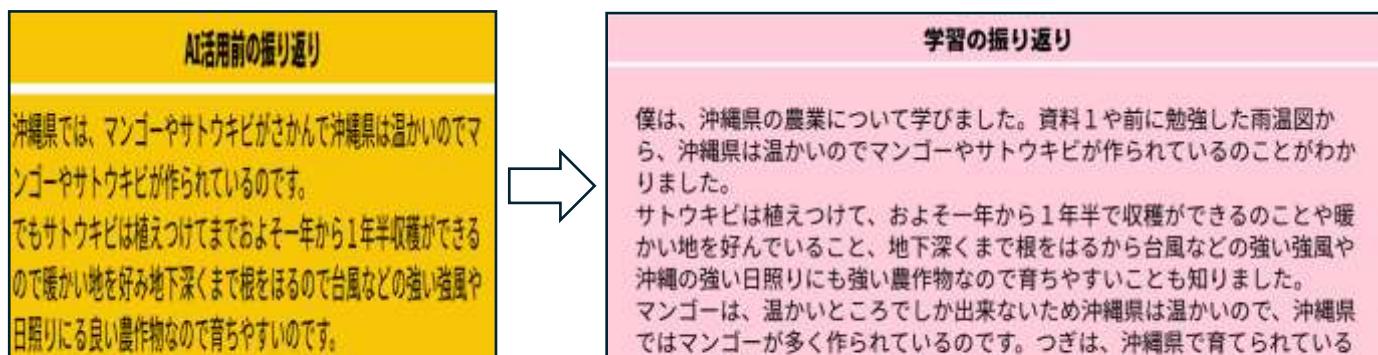
【資料4 A児のテスト後の振り返り(原文)】

一方で、A児からは自分の書いた振り返りがこの内容でよいのか分からないという相談を受けた（資料4）。これまでも振り返りに対するフィードバックは行っていたものの、各教科の振り返りに対して、児童が次時の学習に生かせるタイミングで十分なフィードバックを返すことが難しい場面があった。また、振り返りに何を残せばよいのか、どのような視点で自分の学びを見つめ直せばよいのかを十分に具体的に示すことができていなかった。このことから、振り返りを書く量や抵抗感には一定の改善が見られたものの、児童が自分の振り返りのよさや課題を自覚し、次の学習に生かしていくためには、より即時的で具体的なフィードバックが必要であると考えた。そこで、児童一人一人の振り返りに対して、即時にフィードバックを返し、学びのよさや次に意識する視点を具体的に示すことができる支援として、「Re: Think」を活用することとした。

(2) 「Re: Think」を活用した社会科「さまざまな土地の暮らし」の実践

「さまざまな土地の暮らし」の学習では、教科書に示された学習課題を解決することに加え、教科書を活用してどのように学び、どのように課題を解決していくのかを身に付けることをねらいとして学習に取り組ませた。具体的には、まず児童がワークシートに学習問題を書き写し、1時間の学習のゴールを明確にした。その上で、その学習問題に対する自分の理解度を確かめるために、予想を立てた。その後、教科書本文からキーワードを見つけたり、教科書に掲載されている写真、地図、グラフなどの資料から情報を読み取ったりしながら、学習問題に対するまとめを記述する学習を個別に進めた。また、児童が学び方を意識して学んだり、振り返ったりすることができるように、「何を学んだか」「どのように考えたか」「なぜそう考えたのか」「次にどう学ぶか」の4観点を設定したループリックを作成し、各観点2点、合計8点満点で評価できるようにした。児童はこのループリックをもとに学習を進め、自己評価を行うとともに、「Re: Think」から返される点数やコメントを参考にしながら、自分の振り返りを見直した。

さらに、「Re: Think」が児童の振り返りを4観点到に沿って評価し、次の学びにつながる具体的なフィードバックを返せるように、評価規準やコメントの視点を明示したプロンプトを作成した。これにより、児童が自分の学びの現在地を確認し、次にどのように学ぶかを考えられるように支援した。児童らが個別で学習を進めていく中で、B児は以下のように自身の学習を振り返った（資料5）。



- ① まとめ 「沖縄のあたたかい気候と、台風や日照りに強いサトウキビの特徴をよく説明できているね。」
- ② いいところ 「サトウキビが「根を深くはるから台風に強い」とことや「収穫に 1 年～1 年半かかる」という具体的な特徴を自分で見つけて書けたのがとても素晴らしいよ！」
- ③ ルーブリック診断
「学習内容・ねらい:2 点 学習過程の省察:1 点 根拠・理由:1 点 次への見通し:0 点 合計:4/8 点」
- ④ ヒント 「次は、その特徴をどの資料から見つけたのかを書くことと、次に調べてみたいことの見通しを立てることに挑戦してみよう。」
- ⑤ 書き足し質問 「サトウキビの特徴は、どの資料(写真やグラフなど)から分かりましたか？」
「次は、沖縄のくらしについてどんな工夫を調べてみたいですか？」

【資料5 B 児の振り返りの変容 ※点線枠は実際の「Re:Think」によるフィードバック】

初め、B 児の振り返りは沖縄県の農業について学習内容を並べる記述が中心であった。しかし、その後は教科書に掲載されている「地図」や「雨温図」等を根拠として示しながら、温暖な気候とマンゴーやサトウキビの栽培を関連付けて説明できるようになった。また、「次は、沖縄県で育てられているほかの農作物について勉強したい」と、次の学習への見通しも記述していた。このことから、児童の振り返りは学習内容の記録にとどまらず、根拠をもとに考え、次の学びへつなげるものへと質的に高まってきたと評価できる。

B 児のように振り返りの記述に変容が見られる児童が増えてきた一方で、ルーブリックの点数を気にする児童の姿も見られるようになった。これは振り返りを書くことには慣れてきたものの、振り返りを通して何を見つめ直し、次の学習にどう生かすのかという意識が十分ではなかったためであると考えられた。

そこで、次单元「食生活を支える食料生産」では、振り返りを単に点数化するのではなく、社会科の学び方を自分で調整するためのものとして位置付け直した。具体的には、前单元までと同様に、学習問題を確認し、予想を立て、教科書本文や資料をもとにまとめるという学び方は継続した。その上で、「どこで」「どのように変わったのか」「何と何がつながっているのか」などといった社会科の見方・考え方を意識させながら、資料を読み取ったり自分の考えをまとめたりするようにした。

また、この学びの発展に伴い、ルーブリックも加筆修正した。これまでの4観点は大切にしつつ、社会科の見方・考え方を使って考えているか、資料や事実を根拠にしているか、次の社会科の学びに生かそうとしているかをより具体的に評価できるようにした。これにより、児童が点数を取るために振り返るのではなく、社会科の学び方を自分で見つめ直し、次の学習へ生かしていくことを目指した。

(3) 「Re:Think」を活用した社会科「食生活を支える食料生産」の実践

「食生活を支える食料生産」の学習も前单元と同様に、学習問題を確認し、予想を立て、教科書本文や資料をもとにまとめるという流れで学習を進めた。児童はこのサイクルを生かした学び方に少しずつ慣れてきたことで、学習を整理するだけでなく、自分の学びを振り返る時間も確保できるようになってきた。A 児は、学習後に次のように振り返っている(資料6)。A 児の振り返りはルーブリックの観点に照らして質的な変容が見られた。学習内容については、庄内平野の地形が生み出す、冷害という課題を解決するため、より安全な米を生産するための農家の人々の工夫を具体的に記述しており、学習問題に対するまとめも明確である。また、教科書の大事な文やキーワード、複数の資料を根拠として示しながら考えをまとめており、「なぜそう考えたのか」という根拠の記述も充実している。特に変容が見られたのは、次の学びへの見通しである。初めの振り返りでは、「AI などを使い知りたい」「調べたい」といった記述にとどまっていた。しかし、その後の振り返りでは、「Re:Think」のコメントを参考にしながら、「米作りの課題と工夫」について、既習内容である水産業の工夫と米作りを関連させようという見通しをもっていたり、米作りの工夫の背景を詳しく調べたりしたいと記述している。このことから、A 児は単に分からないことを調べる段階から、何に着目して、どのように次の学習を進めるのかを考える段階へと変容していると捉えられる。

AI活用前の振り返り

僕は、「庄内平野では、安全で美味しい米を作るために、どのような取り組みをしているのだろうか。また、どのようにして消費者へと届けられるのだろうか」という学習課題を見て、「おいしい米をなるべく速く食べられるようにトラックを使っている?。」という予想を立ててから学習しました。

学習したら、「庄内平野では、冷害に悩まされて、冷害に強い品種を作る「品種改良」をしたり、昔はたくさんの農業や化学肥料などを使っていて、体に悪かったのなるべく使わず「たい肥」を使うような工夫をしているので美味しい米が作られています。他にも、「JAの計画」で、トラックや鉄道、フェリーなどを使ったり、農家がそのままインターネットで販売して、消費者へと届けられています。」というまとめにたどり着きました。

なぜなら根拠があるからです。

1つ目は教科書から「必要なキーワードや文章」を探して、「冷害に悩まされていた、そこで品種改良をした。昔はたくさんの農業や、化学肥料などが使われていて、体に悪くて、なるべく使わずたい肥を使う。カントリーエレベーターに運ばれ、味が落ちないように適温で保管。」と知ったからです。

2つ目も教科書を使い、「自分の考えの根拠にした(まとめにつながる)資料」②③を見て「いろいろな方法で消費者へ渡っている。カントリーエレベーターを利用。」と知ったからです。

この2つの根拠をあわせて「庄内平野では、冷害に悩まされて、冷害に強い品種を作る「品種改良」をしたり、昔はたくさんの農業や化学肥料などを使っていて、体に悪かったのなるべく使わず「たい肥」を使うような工夫をしているので美味しい米が作られています。他にも、「JAの計画」で、トラックや鉄道、フェリーなどを使ったり、農家がそのままインターネットで販売して、消費者へと届けられています。」というまとめになりました。

他にも、どのような工夫があるのかAIやたくさんの資料を使って調べたいです。

また、工夫があったらなぜそんな工夫をしようと思ったのかAIなどを使って調べたいです。

- ① 今日の学びのよさ 「前回リシンくんが提案した「米作りと水産業を比べる」というヒントをしっかりと受け止めて、次の学習の課題を自分で決められたのが本当に素晴らしいです!「比べる」という社会科の見方を使って、次の計画を具体的に立てられましたね。
- ② ルーブリック診断 「学習内容・ねらい:2点 社会科の見方・考え方:2点 根拠・理由:2点 次への見通し:3点 合計:9/12点」
⇒次の学びに使える振り返りに近づいています!素晴らしい進歩ですね。
- ③ 次の学びに使えるヒント 次は「米作りと水産業の比較」に挑戦ですね! 比べる時は、お米を届けるための「JAの計画」や「保管(カントリーエレベーター)の工夫」が、水産業ではどうなっているか、温度や運ぶ道具に注目すると、面白い共通点や違いが見つかりますよ。
- ④ 文章ミニチェック 庄内平野では、～作られています。」の文は少し長くなっています。2つの文に分けるとさらに読みやすくなりますよ。
- ⑤ 1分で書き足す2文 1文目:魚を新鮮なまま届ける工夫は、お米を する工夫と似ていると考えました。
2文目:次は、米作りと水産業を比べて、どちらにも共通する「 を届けるための工夫」についてとめた
います。

学習の振り返り

僕は、「庄内平野では、安全で美味しい米を作るために、どのような取り組みをしているのだろうか。また、どのようにして消費者へと届けられるのだろうか」という学習課題を見て、「おいしい米をなるべく速く食べられるようにトラックを使っている?。」という予想を立ててから学習しました。

学習したら、「庄内平野では、冷害に悩まされて、冷害に強い品種を作る「品種改良」をしたり、昔はたくさんの農業や化学肥料などを使っていて、体に悪かったのなるべく使わず「たい肥」を使うような工夫をしているので美味しい米が作られています。他にも、「JAの計画」で、トラックや鉄道、フェリーなどを使ったり、農家がそのままインターネットで販売して、消費者へと届けられています。」というまとめにたどり着きました。

なぜなら根拠があるからです。

1つ目は教科書から「必要なキーワードや文章」を探して、「冷害に悩まされていた、そこで品種改良をした。昔はたくさんの農業や、化学肥料などが使われていて、体に悪くて、なるべく使わずたい肥を使う。カントリーエレベーターに運ばれ、味が落ちないように適温で保管。」と知ったからです。

2つ目も教科書を使い、「自分の考えの根拠にした(まとめにつながる)資料」②③を見て「いろいろな方法で消費者へ渡っている。カントリーエレベーターを利用。」と知ったからです。

この2つの根拠をあわせて「庄内平野では、冷害に悩まされて、冷害に強い品種を作る「品種改良」をしたり、昔はたくさんの農業や化学肥料などを使っていて、体に悪かったのなるべく使わず「たい肥」を使うような工夫をしているので美味しい米が作られています。他にも、「JAの計画」で、トラックや鉄道、フェリーなどを使ったり、農家がそのままインターネットで販売して、消費者へと届けられています。」というまとめになりました。

この学習でたい肥を使う工夫は、安全なお米を消費者へと届けるところが一番印象に残りました。

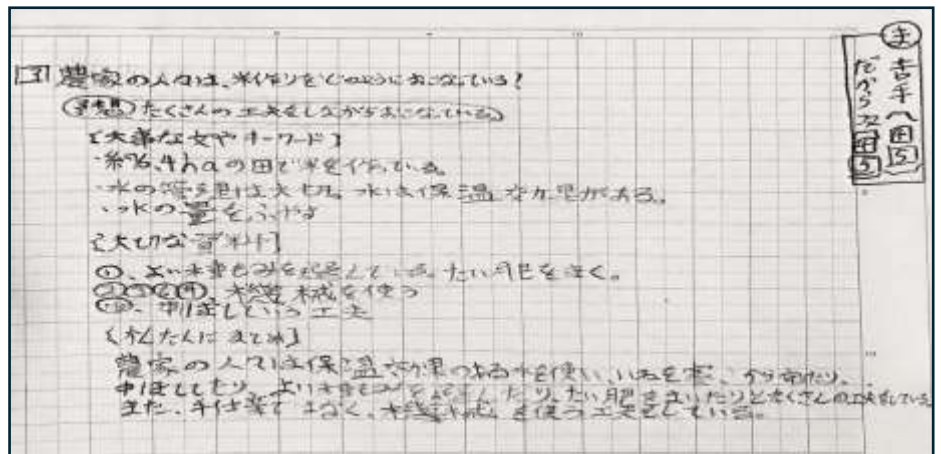
他にも、どのような工夫があるのかAIやたくさんの資料を使って調べたいです。

また、工夫があったらなぜそんな工夫をしようと思ったのかAIなどを使って調べたいです。

次はリシンくんが言っていた「米作りと水産業を比べて、〇〇を届ける工夫にどのような違いがあるのか」という課題を作ってくれたのでAIや、たくさんの資料などを使い、調べたいです。

【資料6 A児の振り返りの変容 ※点線枠は実際の「Re:Think」によるフィードバック】

以上のことから、A児の振り返りは、「何を学んだか」「どう考えたか」「なぜそう考えたのか」「次にどう学ぶか」の各観点において高まりが見られた。特に、「Re:Think」のフィードバックを手がかりに、次の学び方を具体化しようとする姿が見られ、振り返りを次の学習へ生かそうとする意識が育ってきていると考えることができる。A児は単元テスト前に主体的に学習



【資料7 A児の学習内容】

に取り組んできた(資料7)。ノートから、A児は学習問題に対して予想を立て、教科書本文や資料を根拠にしながらまとめる学び方を身に付けてきていることが分かる。また、右上には「苦手だから」と記述し、自分の課題をもとに次の学習を選択しようとする姿も見られた。このことから、A児は内容を書き写す学習から、自分の理解度を捉え、学び方を調整する学習へと高まってきたと考える。

4. 成果

(1) 抽出児童の変容

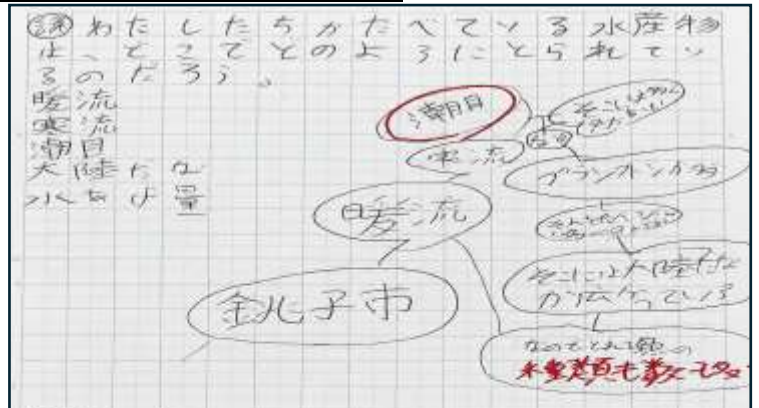
ア A児 ※ アンケート 14 項目の平均値は、事前の 2.43 から事後の 3.93 へ大きく上昇

振り返りの価値付け、学習状況の把握、方略の調整、学習への見通しのいずれにおいても向上が見られた。さらに「Re:Think」の活用によって自分の振り返りのよさや課題に気づき、「どこを学習すればよいのか」が分かるようになったことや前回の振り返りを次の学習に生かすことができるようになった。

学習場面においても、自分の理解の状況や課題に応じて、教科書や資料を活用したり、必要な内容を重点的に学び直したりするなど、(具体的に) 自分に合った学び方を選びながら学習を進める姿が見られるようになった。また、「Re:Think」を活用しない場面でも、4 観点の視点で自分の学びを具体的に表現できるようになってきた。

イ B児 ※ アンケート 14 項目の平均値は、事前の 2.93 から事後の 3.14 へ上昇

学習方略の調整や前の振り返りを次の学習に生かす項目にも改善が見られた。自由記述からも「Re:Think」の活用を通して、振り返りの書き方やまとめ方の素地を身に付けたと感じていることが分かる。一方で、実際の学習場面では学習過程と振り返りの内容を十分に関連付けられず、自分がどのように学んだのかを具体的に表現できていない場面も多く見られた。また、「最初からもっと(「Re:Think」がつける) 点数が上がるように書きたい」と話しており、振り返り



【資料8 B児の学習内容】

の目的が自分の学びを見直すことよりも、ループリックの点数を上げることに向いている様子もうかがえた。

しかし、学習の進め方には変容が見られた。国語科で学んだウェビング図の使い方を社会科の学習にも生かし、教科書から抜き出した情報や資料から読み取った内容を線でつなぎ、それらの関係を捉えながら考えを広げ、課題の解決に向かう姿が見られるようになった(資料8)。このことから、教科を越えて既習の学び方を活用し、自分なりに学習方略を選ぼうとする力が育ちつつあると捉えられる。

(2) 学級全体の変容

アンケートの全体平均は、2.17 から 3.22 へ上昇し、全ての項目で肯定的な変容が見られた。特に、事前のアンケートにおいて、最も低かった「前の振り返りをもとに、次の学習の進め方を考えている」は 1.78 から 3.04 へ高まり、振り返りを次の学習方略の調整に生かそうとする意識の向上が顕著であった。また、「Re:Think」の活用における成長感に関するアンケート項目も全体的に高い値を示し、自由記述にはコメントを通して自分の振り返りのよさや課題に気付いたこと、次に学ぶ内容や意識することが明確になったこと、前回の振り返りを次の学習に生かせるようになったことが記されていた。これらの結果から「Re:Think」による即時かつ具体的なフィードバックが児童に自分の学びを見直す視点を与え、次の学習への見通しを形成する手掛かりとして機能したことがうかがえる。実際の学習場面においても、自分の課題に応じて学ぶ内容や方法を選んだり、教科書や資料から必要な情報を抜き出して関連付けたりする児童が増えた。さらに、「Re:Think」を使用しない場面でも、学習内容に加えて、考えた過程や根拠、次の学習への見通しを具体的に表現する姿が見られた。これは、フィードバックによって得た振り返りの視点が「Re:Think」を使用する場面にとどまらず、児童自身の学び方として活用され始めたことを示している。

以上のことから「Re:Think」と新たに取り入れたループリックを組み合わせた手立ては、児童の振り返りを感じや学習内容の記録から、学習過程を捉え直し、次の学び方を調整するものへと高める上で一定の有効性があったと考える。また、この結果は、即時的なフィードバックによって振り返りの質が高まり、児童の自己調整的な学びが促されるという本研究の仮説を一定程度支持するものであると考えられる。

5. 課題

- ・ 児童が AI に依存せず、自ら学びを振り返り、次の学び方を選択できるようにするための「Re:Think」の即時的なフィードバック機能と教師の見取り・価値付けを組み合わせた指導の在り方を追求する。
- ・ 児童が学びをメタ認知する時間を十分に確保できるよう、「Re:Think」の効果的な活用場面や単元全体の時間配分(カリキュラムマネジメント)の工夫を模索する。